

ホトケノザの花

●くちびる形の花

ホトケノザの花冠は下部が筒形で上部が2個に開き、くちびる形というので唇形花（しんけいか）と呼ばれる。雄しべは4本で下の2本がやや短い。雌しべは子房が4個に分かれている。シソ科と呼ばれるなかまの特徴である。（p120）

▼開かないで終わる花、閉鎖花（へいさか）。



▲長短4本の雄しべの真ん中に、先が二またになった雌しべがある。写真は花冠を広げて雄しべと雌しべを離れたもの。

▶通常のくちびる形の花。4個のやくが、まとまって見える。



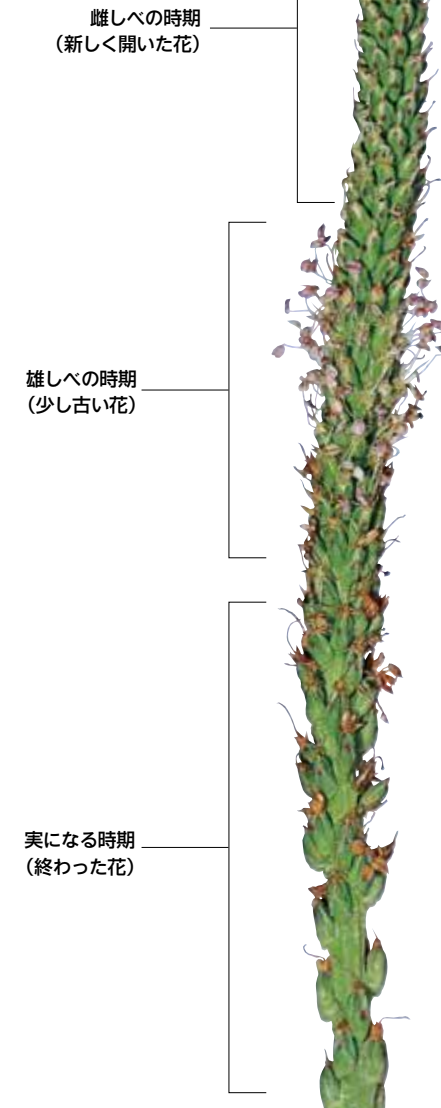
オオバコの花

●穂は咲きながら上にのびる

細長い茎の先に小さな花が集まって穂をつくる。穂の下の方から上に向かって咲いていく。この穂全体で見ると、上部は雌しべの時期、中部は雄しべの時期、下部は実になっている時期である。つまり上部は新しく開いた花、下部は古くなった花だ。穂は5～6月ごろや9～10月ごろに見られる。（p35,42-44,123）



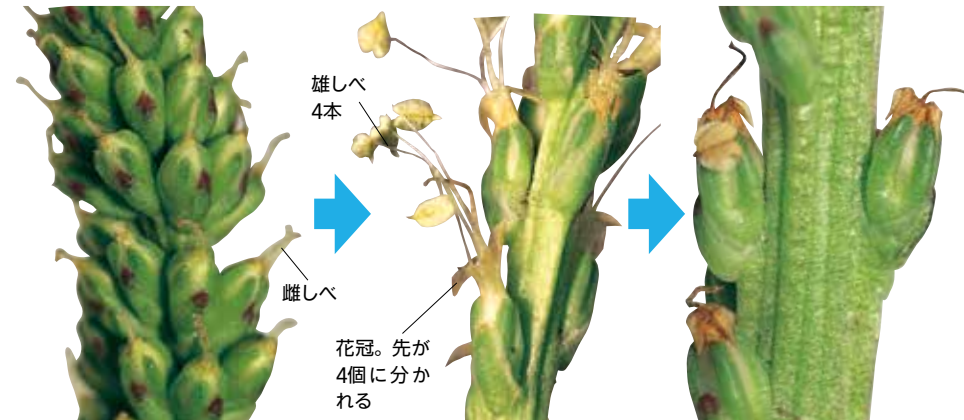
▲空き地のオオバコ。



雌しべと雄しべの時期がずれているのは、同じ花の花粉が雌しべにつかないようにする知恵だ。いろいろな遺伝子が混じったたねができるよう、なるべく別の穂の花粉を受粉することがねらいだ。

●一つの花を 見てみると

花は両性花で、先ず雌しべが現れ、雌しべがしおれるころ雄しべが現れる。



▲雌しべの出た新しい花。柱頭が突き出ている。

▲雄しべの出た少し古い花。

▲終わった花。実になりかけている。